

蘭紋枯病に関する研究

第9報 薬剤散布時期および回数について

松岡正則

(福岡農試筑後分場)

MATSUOKA, M.

Studies on the Stem Rot of Rush Plant.

(IX) On the time and frequency for the chemicals dust.

緒言

蘭紋枯病に対する防除適期ならびに散布回数について、昭和34、35年の2年間、試験を実施したので、その結果の概要について報告する次第である。

方法

蘭草品種大莞3号、1区面積9m²の3区制を供試し、10a当り、モンガレ粉剤（東亜）3~4kgを葉鞘に向けて散布した。試験区別は第1表のとおりである。調査は立毛中の発病調査、34年度は40株について、35年度は50株について、刈取後の発病は株別に刈取った100株について調査した。又収量は刈取後100株について調査した。

第1表 試験区と薬剤散布期日

区番号	区別	34年度散布月日	35年度散布月日
1	5月下旬 1回散布	5月26日	5月25日
2	6月上旬	6月3日	6月1日
3	5月下旬・6月上旬 2回散布	5月26日・6月3日	5月25日・6月1日
4	6月上旬	6月3日・6月8日	6月1日・6月8日
5	6月上旬・6月中旬	6月3日・6月11日	6月8日・6月14日
6	無散布		

試験結果

1) 発病調査成績は第2表のとおりである。

第2表 各年度における時期別の被害度(%)

年次	区別	7月下旬(刈取後)				
		5月上旬	5月下旬	6月中旬	7月上旬	7月下旬
昭和34年	1	0.19	1.06	2.50	1.75	10.67
	2	0.31	2.78	3.94	2.41	14.05
	3	0.06	0.76	4.22	1.50	7.73
	4	0.56	2.10	2.97	2.38	13.95
	5	0.38	1.85	2.38	1.60	11.53
	6	0.31	3.44	8.19	7.72	22.75
昭和35年	1	0	0.07	0.43	1.83	1.98
	2	0	0.07	0.13	1.47	1.87
	3	0	0.03	0.10	0.74	1.12
	4	0	0.07	0	0.97	1.37
	5	0	0.03	0.07	0.93	1.72
	6	0	0.03	0.27	3.90	2.38
2年平均	1	0.095	0.565	1.465	1.790	6.325
	2	0.155	1.425	2.035	1.940	7.960
	3	0.030	0.395	2.160	1.120	4.425
	4	0.280	1.400	1.485	1.675	7.160
	5	0.190	0.940	1.225	1.265	6.625
	6	0.155	1.735	4.230	5.810	12.565

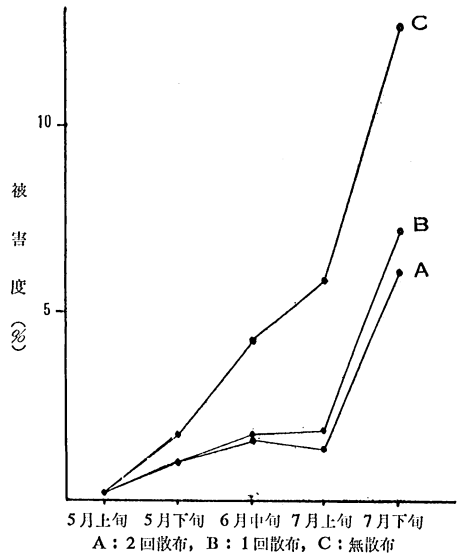
2) 散布回数別の発病調査成績は第1図のとおりである。

3) 収量調査成績は第3表のとおりである。

考察

34年度は3区が7.73%で最も発病が少なく、1区、5区、4区、2区、6区の順に多くなっている。35年

第1図 散布回数比較



第3表 収量調査成績 (2年平均)

区別	75cm以上		75cm以下		発病茎重	総重	同左標準比
	重量	標準比	重量	標準比			
1	1,719.5	96.1	881.0	20.5	2,600.5	99.4	
2	1,812.0	105.4	974.0	31.5	2,806.5	107.3	
3	1,851.5	103.5	927.5	17.0	2,796.0	106.9	
4	1,719.0	96.1	882.0	31.5	2,632.5	100.6	
5	1,771.0	99.0	888.0	23.5	2,682.5	102.5	
6	1,789.5	100.0	822.0	49.0	2,616.4	100.0	

度は3区が1.12%で最も少なく、4区、5区、2区、1区、6区の順に多くなっているが、いずれの年においても、無散布が最も発病が多かった。34年度は5月中旬と6月下旬に降雨量が多く、発病型としてはやや前期の発病が多く(5月下旬~6月中旬)、散布時期も、早い時期の散布が良い結果を示した。35年度は、7月上旬に降雨量が多少多かつたが、全体としては、天候が良く、発病の山が、全く認められず、散布区間に有意差は認められないが、5月下旬散布より6月上旬・中旬散布が、やや良い傾向を示した。又、散布回数による発病の差異は第1図のとおりで、いずれの時期においても、1回散布より、2回散布が発病が少なかった。以上の結果から、蘭紋枯病に対する薬剤散布は5月下旬と6月上旬の2回散布が最も適当であるように考察される。